



発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←→東京←→全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
http://www.kokubunken.or.jp/
E-mail: info@kokubunken.or.jp
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

わが国に於ける民主政治の「共通基盤」 ―野田元首相の追悼演説への日経論説を読んで思ふこと―

理事長 小柳志乃夫

昨年の後半は安倍元総理の事件とその余震のうちに過ぎたと一言へよう。国会では国葬のおよそ一ヶ月後の十月二十五日に野田元首相による追悼演説が行はれた。それまで国葬への欠席を公言してはばからぬ立憲民主党執行部の姿勢に辟易してゐたが、野田氏の演説は政敵ながら首相経験者としての共感と敬意がこめられた内容で、立派な演説だと思つた。

この野田演説に対して日経新聞は「遅れてきた野田追悼演説 党派を超えた『共通基盤』示す」と題する論説を掲載した。そこでは「統治機構の深層に根ざす二つの秘話」として、演説で語られた①平成二十四年末の政権交代時に野田首相が皇居での安倍新首相の親任式に立ち会つた際の控へ室での会話、②先帝ご讓位の折の皇室

典範特例法制定時における首相官邸での差し向ひでの会話を取り上げてゐる。そして「象徴天皇は権力闘争には一切関与しないが、首相の親任式が示すように、民主政治の政治システムの奥底を支える『共通基盤』だ。その根幹に関わる退位立法を巡つては与野党間の対立軸にすべきでなく、内閣と野党を含む国会が『協働』して結論を出さなければならぬ。両氏はこんな基本認識を共有して歩み寄りを探つたのだ」と記されてゐた。

天皇のご存在がわが国の民主政治を支へる「共通基盤」であり、統治機構の深層をなすといふ点は大変な指摘である。論説の念頭には憲法第一条の「国民統合の象徴」といふ一節があつたと思はれるが、憲法第一条自体、わが皇室の悠久の歴史伝統に由来してゐるし、また国家国民の平安を祈られる天皇の御心を仰ぐ国民の敬慕の思ひを背景としてゐる。その全体が大切な「共通基盤」といへよう。

特に、わが国の民主主義について、昭和天皇は昭和二十一年元日の「新日本建設に関する詔書」の冒頭に五箇条の御誓文を掲げられたが、後年の記者会見の折、その趣旨について答へられてゐる。即ち、民主主義を採用したのは明治天皇の思召しによるもので、決して輸入されたものではないことを明らかにして、国民が誇りを忘れないやうにしたのだ、と。

明治の御代は、「広く会議を興し万機公論に決すべし」を高らかに宣言した五箇条の御誓文を以て始まつた。議会において党派対立は少なからずあつたが、皇室を中心に仰いで国家の独立と尊厳を維持するといふ点において一点の争ひもなかつた。

しかし、戦後は占領憲法下、マルキシズムの擡頭もあつて、国内政治は分裂の危機を生んだ。戦前の日本を悪とし、歴史伝統を軽視する風潮が広まつた。「共通基盤」が見失はれたのである。

本会の先輩方が当会を設立されたのも、戦前・戦後の世代を超え

た国民の共通基盤を取り戻さうといふものであつた。「国民同胞感の探求」といふ言葉にその思ひが込められてゐる。

残念ながら、米ソ冷戦が終つて三十余年後の現在にあつても、この構図が残り、「共通基盤」が再建されたとは言ひがたい。むしろ、戦後教育の浸透、グローバル化の侵食、膨大な情報流入などによって、歴史文化に根差した「共通基盤」を崩す力が働いてゐる。

共通基盤を醸成するためには、国民教育に意識を向けて、豊かな日本の歴史や国語を次世代の国民に伝えることが求められる。「共通基盤」の中心をなす皇室の本来のお仕事を学ぶことも大事な教育項目であり、祝祭日と皇室祭祀との関係などもその一つだ。そして何より政治家諸氏は、五箇条の御誓文をもう一度味讀して、わが国政治の中心線を確認してほしい。

今年には憲法改正とともに、統治の根本に関はる皇統の安定的継承のための皇室典範の改正を進めるべき年である。その点で付言すれば、野田元首相の主張される女性宮家の創設は皇室の伝統にあるものではなく、世俗化による共通基盤の崩壊を招きかねないものであつたことを確認しておきたい。